

赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプランの骨子(案)

2024.03.06

目 次

1. わたしたちのまちの魅力と課題

1-1 地区の魅力

- (1)起伏の豊かな地形が生む変化のある眺め
- (2)大小さまざなみどりが織りなす潤いのあるまちなみ
- (3)重層的な歴史が編み出すまちなみ
- (4)地区住民の交流・地区への愛着を育む様々な活動(アクティビティ)

1-2 地区の景観の課題

2. 赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン ービジョン編ー

2-1 プランの目的と使い方

2-2 プランの対象範囲

2-3 景観まちづくりの方向

- (1)景観の将来像
- (2)景観まちづくりの方針

3. 赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン ーアクション編ー

3.1 景観まちづくりの取り組みアイデア

3.2 景観まちづくりの取り組み体制

3.3 景観まちづくりのルール(案)

3.4 活用しよう！補助制度

1. わたしたちのまちの魅力と課題

1-1 地区の魅力

赤塚四・五丁目地区(以下、「本地区」という)には赤塚ため池公園や赤塚公園を中心とする板橋崖線などの自然や、崖線周辺に点在する神社仏閣などの歴史・文化的資源があります。

私たちが普段目にしている地区の眺めは、このような資源が組み合わさった姿といえます。中でも、多くの人々が魅力的と感じる眺めは、自然や歴史、文化などの資源が「暮らし」と上手に調和している風景です。

以下では本地区の資源とそれらが生み出す魅力的な景観を紹介します。

(1)起伏の豊かな地形が生む変化のある眺め

本地区には、板橋崖線による斜面緑地のほかにも複数の谷筋がみられ、起伏の豊かな地形となっています。そのため、高低差を処理するための坂道や階段が多く見られ、これらによって変化に富んだユニークな眺めが生み出されています。

::変化のある眺めをつくりだす資源

崖線



坂道



暗渠



階段



::地形による魅力的な景観

●ダイナミックなスリバチ景観

スリバチ状の谷地では、ダイナミックな坂道の景観が楽しめます。谷地に沿って歩くと、動きを持った街並みによる感動的な体験が得られます。また、坂道や階段の上から見下ろしたり、下から見上げた時に視線が先へと誘導されるような眺望を楽しむことができます。



●歩いて楽しめる小道の景観

路地や階段、暗渠などの小道は軒先の緑との距離も近くなり、親密感のある街並みを楽しみながら歩くことができます。暗渠では地下の水の流れの音が聴こえ、小道を住处とする小動物たちにも出会えます。



●俯瞰するパノラマ景観

崖下の市街地の屋根並みを遠くまで俯瞰的に見下ろすパノラマ景観を見ることができます。



(2) 大小さまざまなみどりが織りなす潤いのあるまちなみ

本地区は、赤塚城跡・都立赤塚公園の西側に位置し、自然と歴史と文化の里・武蔵野の香りが今なお残るエリアです。板橋崖線には貴重な緑地が残されているほか、赤塚氷川神社や赤塚乳房大神などには長い歴史のなかで大切にされてきた大径木があり、まちの景観に風格を与える地域共有の財産となっています。

また、住宅の植栽は彩り豊かで、梅雨にアジサイ、秋にはピラカンサの赤い実になるなど季節ごとにまちのみどりを形作っており、大小さまざまなみどりが織りなす景観が赤塚地区の特徴です。

：大小さまざまなみどり

崖線に残る緑地



大径木



住宅の植栽



公園や街路樹のみどり



::みどりがつくる様々な景観

●「崖線」がつくるみどり空間

崖線のみどりは北側の低地の道路や公園などの公共空間から、見上げる形で見通すことができます。



●シンボルツリー

氷川神社の保存樹木など、地区内には存在感のある巨木がシンボルツリーとなっています。



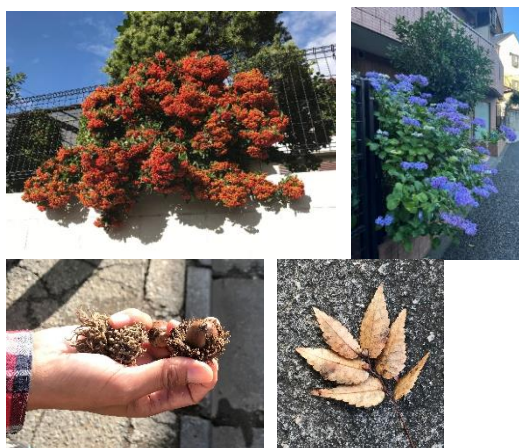
●参道の並木

赤塚氷川神社の参道では立派な並木が静寂で神聖な環境をつくりだしています。



●あふれだす小さなみどり

公園や敷地内の小さなみどりが公共空間にあふれだし、みどりの景観を形作っています。



:: 様々な楽しみ方ができるみどり景観

●おいしいみどり(農地)

区民農園では野菜を育て、旬の野菜を収穫して食べる活動は「おいしい景観」を生み出しています。



●音で楽しむ

樹林に風が吹き抜けると葉や梢がサワサワと奏で、音で景観を楽しむことができます。



(3)重層的な歴史が編み出すまちなみ

本地区は、鎌倉末期の文書に赤塚郷という地名が登場するなど古くから人の営みがある地区です。地区内には、赤塚氷川神社や清涼寺など歴史を感じられる資源が点在しています。また、かつては田畑が広がる田園集落であったこの地区には、そのころの面影をみることができます。

赤塚氷川神社



清涼寺



(4)地区住民の交流・地区への愛着を育む様々な活動

本地区には、農業を中心とした暮らしなど、地区の人たちによって紡がれてきた歴史があり、それらを今に伝え、みらいにつなげていく多くの活動が行われています。

神事で歴史を感じる



土に親しみ、楽しむ



ハレの日※1の景観



※1 ハレの日 : 年中行事やお祭りを行う日のこと。

1-2 地区の景観の課題

●地形の大きな改変により生じた圧迫感の軽減

高低差の多い本地区では、開発等に伴う地形の改変により擁壁が多くみられます。人工的な素材による無機質な高い擁壁は、通りに圧迫感をもたらします。

擁壁の形態や表層の仕上げ、みどりを付近に配置するなど、圧迫感を軽減する工夫が求められます。



●眺望を楽しむ視点場づくり

せっかくの眺望も木々によって視界が遮られていたり、くつろぎながら眺望を楽しむ場所がないなどの課題がみられます。眺望を楽しむ場づくりが求められます。



●みどりの「量」の維持・保全

本地区では近年宅地開発が進み、農地の転用に合わせてみどりの景観が失われつつあります。宅地開発の傾向としては、外構が無機質な新築住宅が多く、小さいながらも庭先のみどりを積極的に生み出していく工夫が求められます。



●みどりの「質」のさらなる向上

崖線のみどりについては、クズがはびこっていたり、擁壁になっていたりします。貴重な地域の財産である保存樹木も越境枝や落ち葉の問題で本来の樹形を残すことが難しくなっているケースもみられます。落ち葉などの維持管理も地区全体で取り組み、みどりを大切にしていける環境を整えていく必要があります。



2. 赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン ービジョン編ー

2-1 プランの目的と使い方

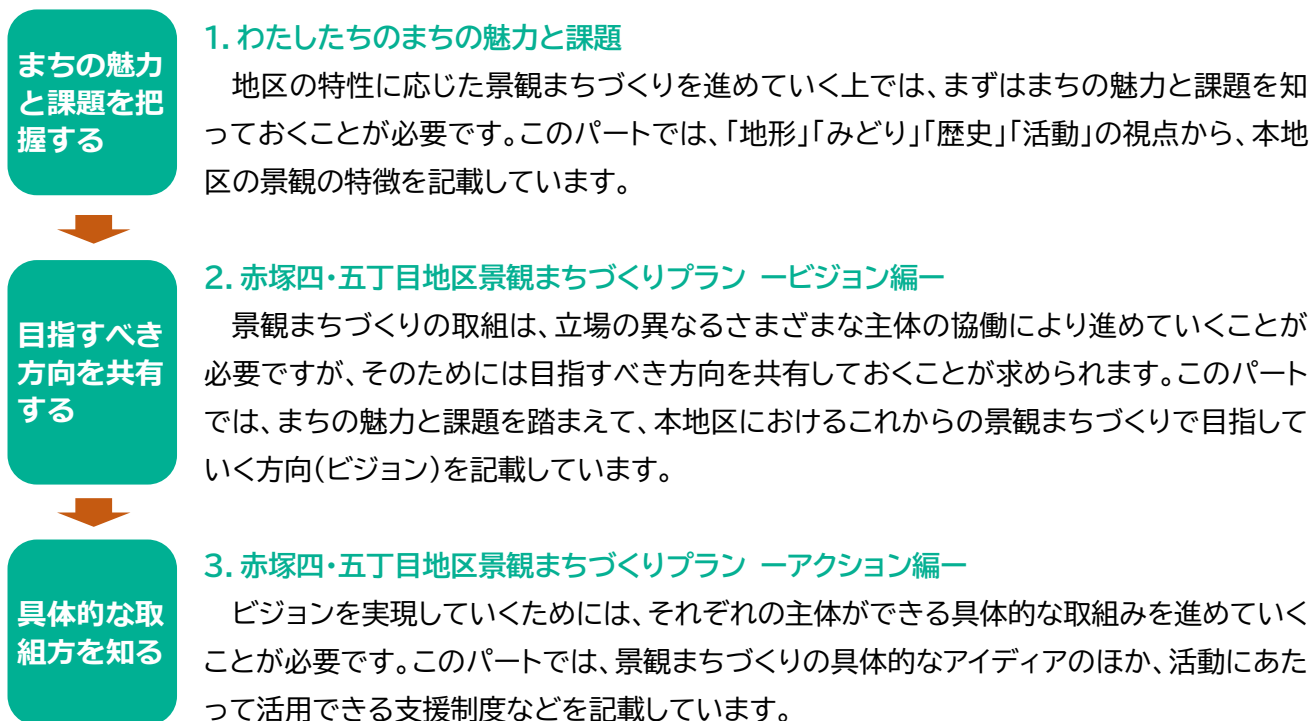
(1)プランの目的

本地区は、「1.わたしたちのまちの魅力と課題」に示したように、起伏のある地形や大小さまざまなみどり、重層的な歴史を背景とした魅力的なまちなみの中で、地区住民のさまざまな活動が展開されています。一方では地形の改変による影響、みどりの維持保全や質の向上、景観に関わる地区住民の取組を活性化していくことなどが求められています。

「赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン」(以下、「本プラン」という)は、本地区の景観の魅力と課題を明らかにした上で、本地区で目指したい景観の姿やその実現に向けた景観まちづくりの方向、さらに具体的な取組方策を示すことで、地区住民、事業者、行政が協働で魅力を活かした景観まちづくりの展開を目指していくための計画です。

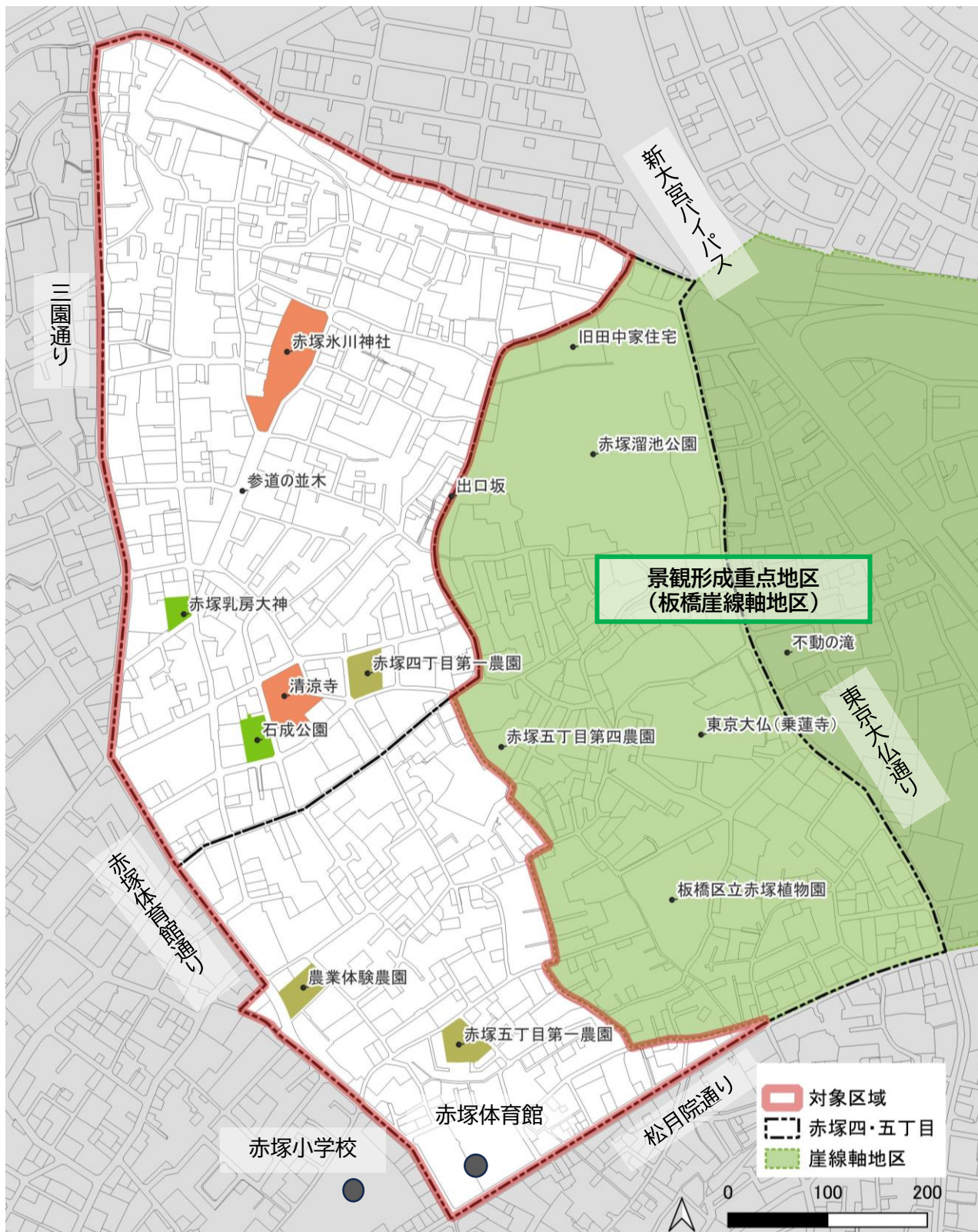
(2)プランの構成と使い方

本プランは、以下のような構成になっています。それぞれのパートの目的と使い方を示します。



2-2 プランの対象範囲

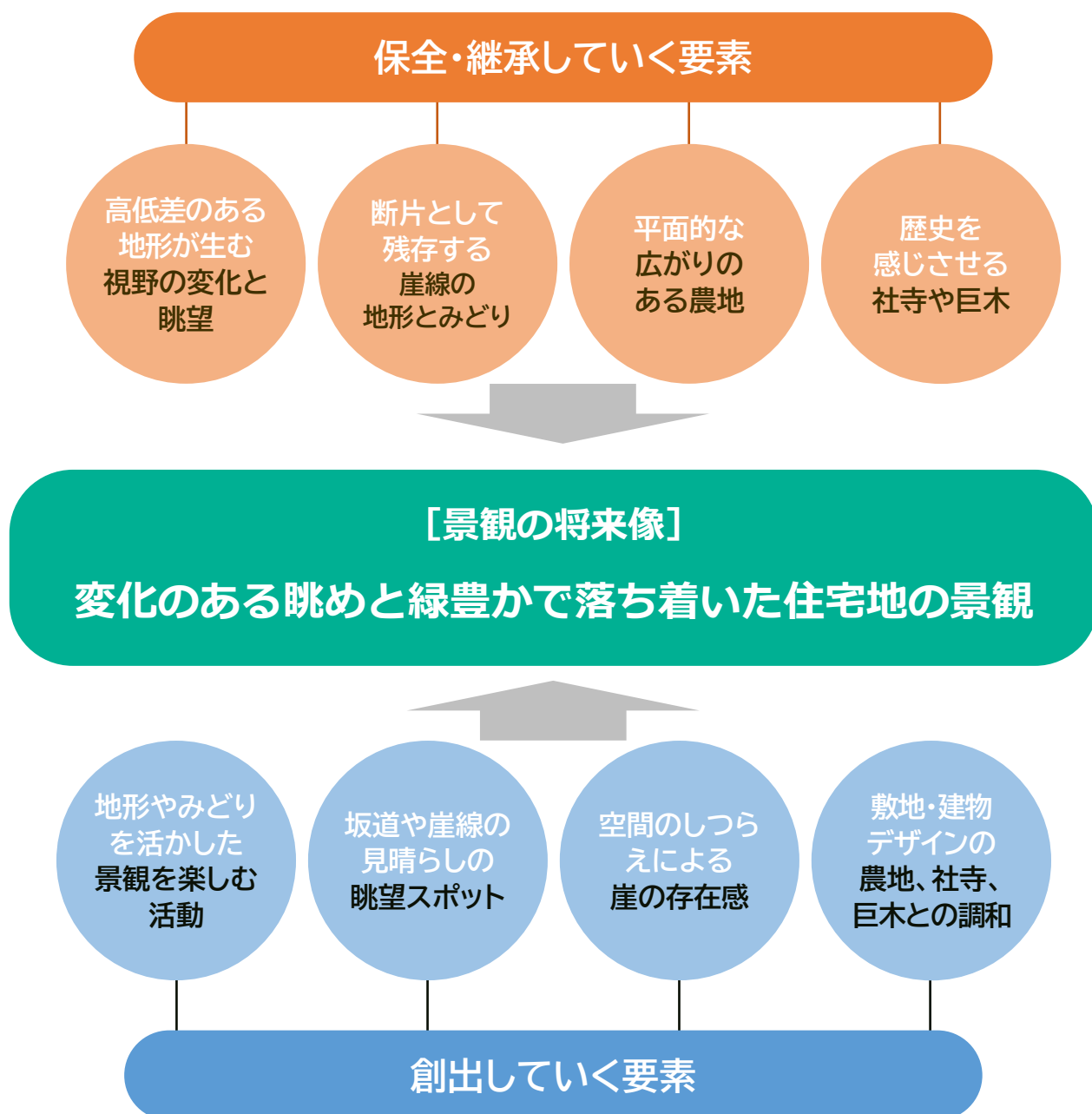
本プランの対象は、以下に示す範囲(赤塚四・五丁目地区)とします。



2-3 景観まちづくりの方向

(1) 景観の将来像

本地域の景観資源を保全し継承しながら、それらと調和し、魅力を引き立て、魅力を楽しむ環境を創出していくことにより地域らしい景観をつくっていくものとし、景観の将来像を以下のように定めます。



(2)景観まちづくりの方針

目指すべき景観の将来像の実現に向け、以下の 3 つの方針によって景観まちづくりを進めていくものとします。

●地形による変化のある眺望を活かした景観づくり

高低差のある地形が生み出す変化のある眺望が本地区の景観の大きな特徴です。このため、こうした眺望を日常的に楽しんだり、意外な眺望に出会うことができる景観づくりを進めていきます。

●崖線のみどりや農地のみどりに親しむ・楽しむ景観づくり

魅力的な要素になっている崖線や農地は地区内にばらばらに存在しています。このため、これらの魅力資源を身近に感じ、触れられる景観づくりを進めていきます。

●歴史・文化を感じさせる深みのある景観づくり

由緒ある神社や参道の巨木は本地域の歴史と伝統文化を感じさせるものです。このため、歴史の再発見を促し、培われてきた文化に触れることができる深みのある景観づくりを進めていきます。

(3)景観まちづくりの将来イメージ

本日、みなさんで作成を行います。

3. 赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン ―アクション編―

3-1 景観まちづくりの取り組みアイデア

(1)本地区で取り組む景観まちづくりのアイデア

建物のデザインのアアイデア

①高低差のある土地を活かした建物デザインを積極的に取り入れるルール作り

○建物をひな壇状に配置し、変化に富んだ街並みを形成する

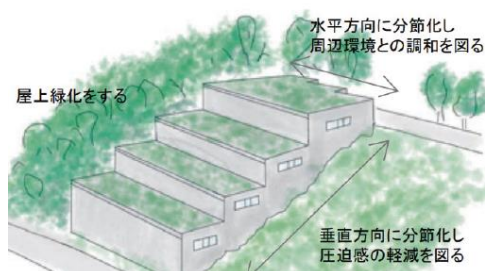


○集合住宅には地区の眺めが楽しめるルーフテラスを取り入れる

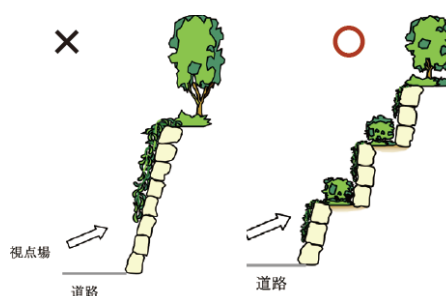


②建物や擁壁の圧迫感を軽減するルール作り

○崖地の大きな建物は分節化し、圧迫感を軽減する



○擁壁は勾配をつけたり階段状にすることで圧迫感を軽減する



○自然素材や緑化ブロックを使用し、人工的な圧迫感を軽減する



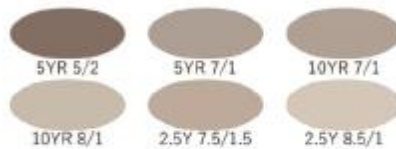
③歴史的資源や緑と調和する色彩・形のルール作り

神社や寺などの周辺では自然素材や調和する意匠を用いる



○神社や寺などの歴史資源や緑と調和する建物色彩ルールづくり

■外壁色



建物の外壁の推奨色
を定めるなど。

緑豊かな環境を保全・創造する取り組みのアイデア

①緑を増やすルール作り

○擁壁や屋上を緑化する



○視界に入る緑の量を増やすために、緑の植え方を工夫する



○隣近所と協力した美しいお庭が並ぶまちなみづくり



②緑を育てる活動・ルール作り

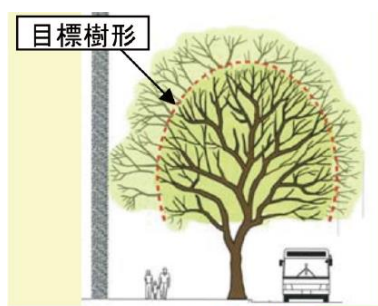
○地域での落ち葉の清掃などの緑の維持管理活動の推進



○区民農園の美しい維持管理の推進



○樹木の形を活かした剪定



地域の魅力をより高める取り組みのアイデア

○地域の特徴である坂道や歴史を発信するマップづくり



○景観の魅力や課題を発見するまちあるきイベント

